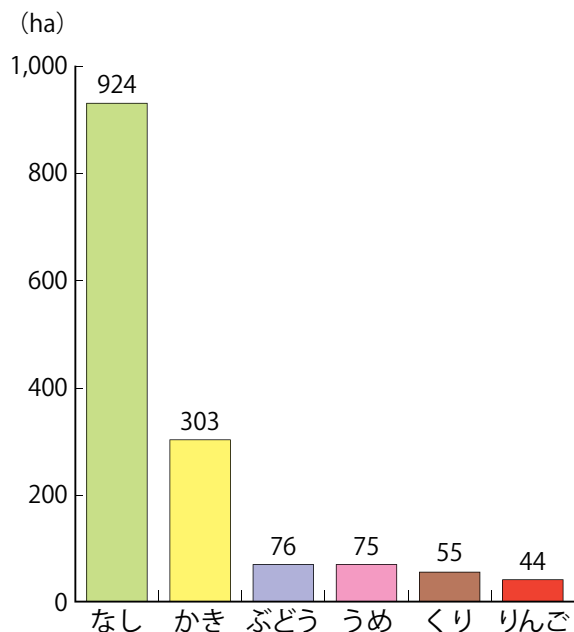


4 ^{くだもの} 果物づくりのさかんなところ

① ^{とっとりけん}鳥取県の果物づくりの^{とくしょく}特色

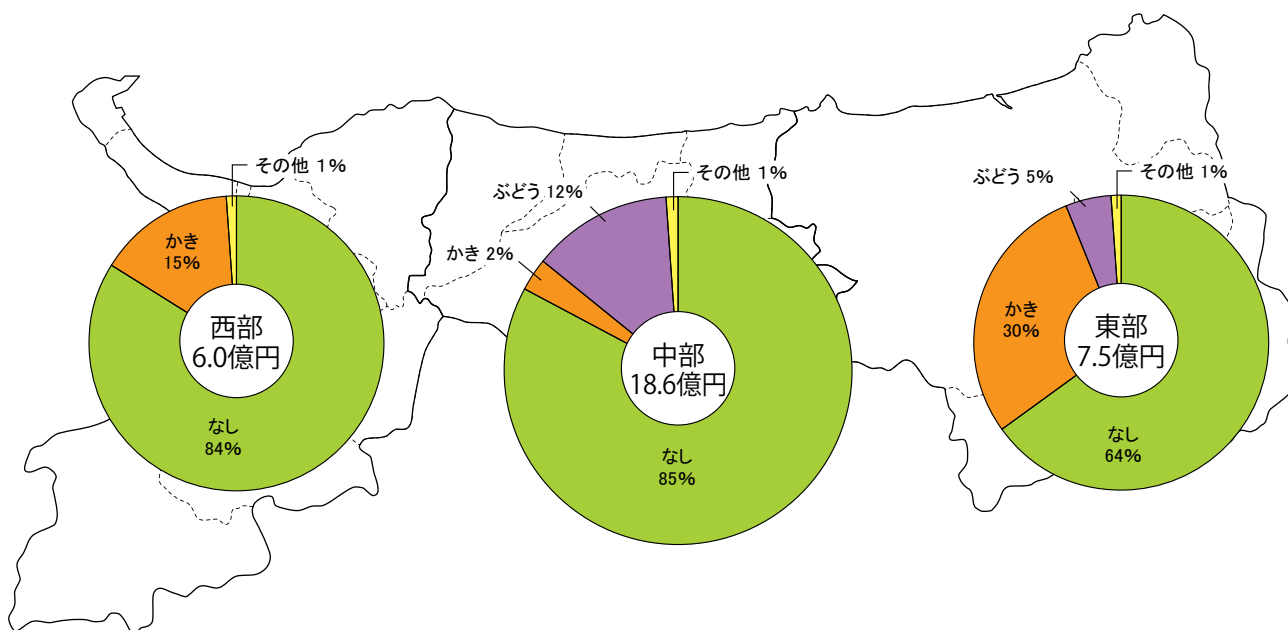
鳥取県では、それぞれの土地の^{きこう}気候や地形などを生かして、いろいろな果物をつくっています。

さいばい面積では、なしが一番多く、かき、ぶどう、うめ、くり、りんごの順になっています。



鳥取県の果物のさいばい面積
[2016年 / 農林水産省]

鳥取県内の果物づくりのようすを^{ちいき}地域別のしゅうかく量で見ると、中部地区が最も多く、果物づくりがさかんなことがわかります。



鳥取県の地域別に見た果物のはん売額 [2018年 / ^{ぜんのう}全農とっとり]

なし



ひのぐん
白野郡をのぞく
県内ほぼ全域でさいばい

ぶどう



ゆりはま
北栄町，湯梨浜町を
中心にさいばい

かき



やず なんぶ
八頭町，南部町を
中心にさいばい

りんご



だいせん
八頭町，大山町を中心に
さいばい

いちじく



ほくえい
北栄町，南部町で
さいばい

ブルーベリー



鳥取市，大山町を中心に
さいばい

さいきん
最近では，なしの「新甘泉」や「なつひめ」，かきの「輝太郎」
ぶどうの「シャインマスカット」など，味のよい新しい品種ひんしゅがつく
られるようになり，さいばい面積も毎年ふ増えています。



なし
「新甘泉」



なし
「なつひめ」



かき
「輝太郎」



ぶどう
「シャインマスカット」

②クローズアップ！果物づくり

日本一の^{にじっせい き}二十世紀なしの産地：^{とっとりけん}鳥取県

「二十世紀なし」は、鳥取県を代表する^{だいひょう}特産物です。日本^{とくさん}全国^{ぜんこく}どこでも「なし」と言えば「鳥取県」の名前があげられるほど有名です。鳥取県に初めて「二十世紀なし」が植えられたのは明治^{めいじ}37年で、鳥取市桂見の北脇栄治という人が、10本の苗木を植えたのがはじまりです。

大きくて美味しい「二十世紀なし」を作るために、4月には受粉^{じゅふん さぎょう}作業、5月に摘果^{てき か}作業を行った後、なし専用^{せんよう}の袋^{ふくろ}を2回かけて、大切になしの実を育てます。

受粉作業は、なしづくりで最も大切な作業で、この作業を行わなければ実がなりません。なし農家の皆さんは、花が満開となるこの時期が最も忙しくなります。

なしの実が直径^{ちよっけい}1cmくらいになったら、その中から一番大きくなりそうな実だけを残して他の実をはさみで切り落とし（摘果作業）、残った実に小さな袋をかけます。なしの実が直径4cmになると、少し大きい袋をかけて、なしの実を虫や病気から守ります。



はじめて鳥取県に植えられた
二十世紀なしの木

なしづくりの^{おも}主な作業



授粉（^{こうはい}交配）作業（4月）



摘果作業（5月）



小袋かけ作業（5月）



大袋かけ作業（6月）

さきゅう ばたけ 砂丘地に広がるぶどう畑

鳥取県中部を流れる天神川てんじんの下流に広がる砂丘地は、川から水を引き、スプリンクラーなどで水をやるしくみが整った鳥取県最大のぶどう産地です。

最近では、つぶの大きなぶどうの人気が高いため、巨峰きょほうやピオーネ、緑色で皮ごと食べることでできるシャインマスカットなどの品種のさいばいに力を入れています。

また、ビニールハウスで作ることによって、温度を上げて、早くしゅうかくできるように工夫しています。



ぶどう「ピオーネ」

ふゆう なんぶ 富有の里 南部町

鳥取県西部の南部町では、かきづくりがさかんです。毎年約280トンのかきが、大阪・神戸などの大都市に向けて出荷されます。

特に「富有」という品種のさいばいがさかんです。「富有の里」として全国にせん伝し、「全国柿の種吹きとばし大会」などの楽しいイベントをしています。



全国柿の種吹きとばし大会